

「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業づくりのポイント

視点	No.	内容	チェック
<p>子供たちが 生き生きと学ぶ 授業づくりの前提</p>	1	信頼関係に基づく学級づくり(肯定的・共感的な人間関係づくり)を進めている。	✓
	2	学級に学習規律(時間、挨拶、話し方、聴き方、学習用具等)を浸透させている。	✓
	3	本単元・題材や本時を通して、児童生徒が「何ができるようになるか」について確認している。	✓
	4	教材・教具を工夫している。 (教師間・異校種間等で連携を図り、指導の系統及び安全面を踏まえた工夫をしている。)	✓
	5	本単元・題材や本時で活用できる既習事項と、その定着状況を把握している。 (全国・県学調、レディネステスト、アンケート、家庭学習等)	✓
<p>指導過程や授業形態等の工夫・改善</p>	導入の工夫		
	<p>端的な動機付けによる学習課題の明確化、学習意欲の向上</p>		
	6	「日常の生活場面からの問題提示」「驚きや疑問、感動を与える導入」「既習事項との関連(習得した知識・技能の活用)に気付く導入」等により学習意欲を喚起している。	✓
	7	本時の目標(めあて・ねらい)を明確にし、児童生徒が「追究したい、解決したい」という必要感がもてる学習課題を設定している。(板書等で分かりやすく提示している。)	✓
	8	「どのように学ぶか」という学習の見通しをもたせている。	✓
	展開の工夫		
	<p>学習課題の追究、解決に向けた主体的・対話的な学習活動</p>		
	9	体験的・問題解決的な学習活動を設定している。	✓
	10	自力解決の時間を適切に設定し、児童生徒に自分の考えをもたせている。	✓
	11	言語活動の充実(話し合い、発表、プレゼンテーション、討論、論述、レポート作成等)を図っている。	✓
12	目的に応じたペア学習、グループ学習等、児童生徒の主体的・対話的な学びのための学習形態を設定している。(その目的や行い方を丁寧に指導している。)	✓	
13	児童生徒の思考を促す発問や理解を深める発問を工夫している。	✓	
14	端的で分かりやすい指示を心掛け、板書とリンクさせてノート指導を行っている。(本時の学習の流れ、思考の流れが確認できる板書を工夫している。)	✓	
終末の工夫			
<p>本時の学びの振り返りと身に付けさせるべき力の定着</p>			
15	学習活動を振り返る場を設定し、児童生徒に変容を実感させ、その伸びを見取っている。また、今後につながる振り返りを全体で共有している。	✓	
16	児童生徒が本単元・題材や本時を通して働かせてきた「見方・考え方」をもとに、新たな課題を見付けたり、深い学びにつなげたりしている。	✓	
17	家庭で復習できるようなポイントを示したり、今後の学習活動の見通しをもたせたりしている。	✓	
<p>評価に関する工夫・改善</p>	18	単元・題材の評価規準を設定し、各観点のバランスのとれた評価計画を作成し、教師の指導改善及び児童生徒の学習改善につなげている。	✓
	19	本時の評価規準に準拠した指導と評価を繰り返している。	✓
	20	評価結果の蓄積(補助簿の活用)から児童生徒の学習状況を把握し、次時以降の授業改善に生かすとともに、個別の指導・支援を明確にしている。	✓